



No.29

平成26年10月1日
発行 多治見市教育研究所

URL

<http://school.city.taijmi.lg.jp/kyoiku/>
本誌は、多治見市教育研究所ホームページ上でもご覧いただけます。

卷頭言

トイレ掃除に学ぶ

平和中学校では、日本を美しくする会のみなさんと一緒に「トイレ掃除に学ぶ会」をおこなっています。今年で3回目です。

1年生の生徒は、最初「こんなところやるの、嫌だ」と騒いでいる者が多かったです。けれど、磨いているうちにきれいになっていくのがわかり、楽しくなってきたみたいでした。便器を洗うスポンジは、くちゃくちゃに、それと反対に便器の汚れがおちるのがわかって夢中で掃除に取り組みました。いろいろなところがピカピカになりました。

トイレ掃除の前は、あんなに不安で嫌だったのに、掃除の後には不思議なくらいにすっきりした気持ちになったのではないでしょうか。

「やる直前までは嫌だったけど、やり始めたらトイレを掃除することも気にならなくなつた。」「こびりついていた汚れが落ちるとうれしくて、気持ち良くなる。家でもトイレ掃除をやろうと思った。」などの感想をもつた人もあるでしょう。

どんなことでも一生懸命やることは楽しいということです。

このトイレ掃除では5つの柱があるそうです。

1. 謙虚な人になれる
2. 気づく人になれる

多治見市小中校長会 会長

平和中学校 校長 水野 寿一

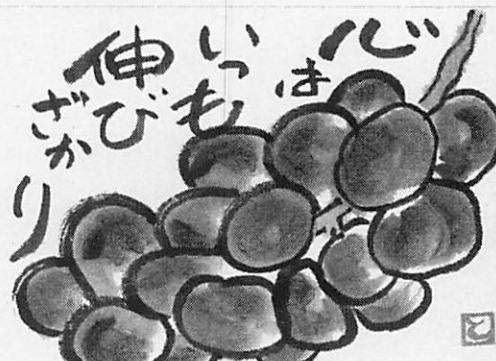
3. 感動の心を育む
4. 感謝の心が芽生える
5. 心を磨く

掃除を通して、掃除だけでなく人と人のつながりを育てるとても大切なことだと思います。

みんなが過ごしやすいように、どんなことでも進んで最後まで一生懸命取り組む事が実感できたひとときでした。

平和中学校の生徒会は「共に成す」を合い言葉に、自分の力を友だちと繋ぎ、共に高まるように取り組みを進めています。

掃除に学ぶ会で得た素晴らしい心を、平和中が大切にしている活動（4つの柱）①合唱②挨拶③無言+MOVE 清掃」④「ノーベル」（授業開始・終了のチャイムをなしで行動）などの今後の活動にいかしたいと強く感じました。



**笑顔・感謝・そして喜び
得意セミナーを終えて**



「短時間で3つの実験をさせていただき、とても楽しかったです。…中略…来てよかったです。親子で良い時間が過ごせました。」笑顔で帰られる保護者の傍らには、セミナーで作った作品を両手いっぱいに持ち、満足げな児童の姿がありました。

「去年も参加して、大嫌いだった読書感想文が大好きになったので、今年も参加しました。…1時間で2枚も完成してしまったので嬉しかったです。来年も必ず参加して、もっとすらすら書けるようになりたいと思います。」

「初めての自由研究です。子どもの『なぜ?』という思いを大切にして、親子で研究したいと思いました。まだ、1年生なので、これをきっかけに“理科”や“研究”が好きになってくれると嬉しいです。」

こういった感想から分かるように、夏休みの得意セミナーに参加してくれた、多くの児童生徒の皆さんや保護者の方々が、充実した時間を過ごすことができました。

このセミナーは、先生方の得意なことを市内の児童生徒たちに伝えていくというねらいで、毎年行われています。今年度は、19講座（昨年度14講座）開設しました。1講座の人数には限りがありましたが、講師にお願いして、受講可能人

数を100名あまり増やしてもらいました。それでも、追いつかず、申し込み多数の講座は抽選をさせていただきました。（申込総数1311名、受講者529名、最大倍率11.7倍 平均倍率3.1倍 講師数52名）

どの講師の方も、内容や支援方法に様々な工夫をしていただきました。その姿に、日々の授業で、子どもたちに、熱心に指導をされている様子が目に浮かびました。そして、なにより、多治見市内の子どもたちのために、何とか力をつけたいという熱い思いが伝わってきました。

その熱意は、当日の暑さ以上に、四万十市をぬいて、間違いなく、日本一でした。

「今年で3年目ですが、毎年実験の内容を変えています。」と、7月の暑い日、涼を感じさせるドライアイスを使った実験を行ってくださった先生たち。集中する子どもたちの姿が嬉しくて、ついにこにこしてしまった私に、「よかったです、一緒に作りますか？」声をかけていただきました。その時に、作った葉脈のしおりは、私の大切なものになりました。

「子どもたちの発想を大切にしています。こういう作品は、子どもならではです。」と、K先生。私には、どんなに頑張っても、子どもたちのような想像力豊かな作品は作れませんでした。



「読書感想文講座を実施するたびに『今まで自分はどこまで丁寧に書き方のコツを教えてきたのかな?』と自問自答することや『さまざまな実態の生徒に対応するためにはどうすればよいの



か』・・ということを考えます。今回も多少なりとも、児童生徒や保護者の願いにこたえられたことは自分としてもうれしいです。そして、それよりなにより、児童生徒が毎年前向きに取り組んでくれることがうれしいです。」とは、KM先生。2時間、子どもたちの集中力は、見事でした。

「いつもは、いやいや書いていた習字が楽しくなった。」「苦手だった図工が、セミナーをやって、初めて楽しいと思った。」「跳び箱を跳ぶときのコツがつかむことができたのでよかった。」「今日は、算数セミナーを通して仲間が増えたと思います。」

「給食室の仕組みや過程が分かりとてもいい勉強になりました。」「まだまだ一緒に本を楽しみたいと思いました。」「今回の講座をきっかけに、光や音について興味を持ってくれると嬉しいです。」

「息子には普段PCを触らせてていなかったので、良い機会になりました。」などなど、たくさんの笑顔と感謝そして、親子で過ごす喜びにあふれた得意セミナーでした。それを支えてくださった、講師の先生方、ご協力いただいた学校関係者の皆様を始め、多くの皆様に改めて感謝いたします。



互いに学び合うことの意義 教師塾セミナーを終えて

「教師だけの講座でなく、子どもたちが実際に跳ぶところを見て、指導の仕方を学ぶことができたので、とてもいい勉強になりました。」

セミナーに参加した若手教員の感想です。

この後に、「これから指導に役立てます。」とれます。

この教師塾セミナーの意義は、どこにあるのでしょうか？その答えは、参加していただいた先生方の感想にある、そう思います。

感想の一部を載せます。

「音楽は大好きですが、自分に技能がなく悩んでいました。でも、今日の講座に参加し、さまざまな知識を得、なんだか本当に楽しい時間があつという間に過ぎ、少し音楽に対して前向きになれたと思います。」

「子どもの個性やどんなところが得意で、苦手かをよく理解して、その子にあった環境を整える努力をしたいです。教師もその環境の一部というお話を聞いて、改めて責任の重さを感じました。」

お互いが、普段、困っていることを相談したり、質問したりするなかで、学び合い、研修がより良いものになる。その様子が目に浮かぶ感想です。

私が、回らせていただいた会場でも、先生方の熱心な話し合いや活動がありました。互いに学び合う。そこにこのセミナーの意義があります。

また、身近な先生が講師であること、大きな魅力ではないでしょうか。特に若い先生には、講師の方だけでなく、参加された先輩方の実践は、学ぶ価値が大きいと思います。身近な所にモデルとする先輩の姿がある。その機会が、この教師塾セミナーなのです。

講師の先生方、意義のあるセミナーになりましたこと、改めて、ご尽力に感謝いたします。感想に表れた評価の高さが、この意義を如実に語っています。ありがとうございました。

第16回多治見市連合生徒会 交流会が行われました！

8月7日、笠原中央公民館にて、笠原中学校を議長校として、第16回多治見市連合生徒会交流会が行われました。交流会の中では、さすがは各中学校を代表するリーダーたちだと感心する姿に数多く出会いました。自分たちの学校の発表はもちろん、他校の発表も大切にし、よりよく話し合いが進むよう、よく聞いたり、何気ない手助け（電灯を消す、プレゼンを助けるなど）をしたりする、素敵な姿がたくさん見られました。

ここに各中学校生徒会の素晴らしいを、発表順で簡単にまとめます。

【笠原中学校】

議長校として、午前から準備、リハーサルを進め、連合生徒会交流会を支えました。

笠原中学校には、仲間を思い、仲間の存在を大切にしようという、集団の心の土台ができていると感じました。さらに、心で思うだけでなく、仲間同士が「思い合う」「大切にし合う」ことが普通にできる、温かい集団になろうと取り組み続けられているところが素晴らしいと思いました。

【陶都中学校】

活動に対して「全校でやろう！」「全員でやろう！」という、取り組みへの空氣づくりを大切にしているところが素晴らしいと思いました。一人、二人の動きではなくなかなか広がらないけれど、一人一人がつながり合い、みんなが動くと大きく変わることに気付けたことが取り組みを通して得た価値だと思います。

【多治見中学校】

「組織的な動き」というのが、多治見中学校のキーワードです。仲間の中に「当たり前のことを当たり前にする」という意識が生まれているところが素晴らしいと思いました。一人一人が、きちんと自分の責任を果たすことが「組織の動き」を生みだすことにつながるのだということが、集団に位置付いています。



【平和中学校】

「Ready Go活動」を通じ、全ての学級、全ての仲間が、結果を出し、成果を味わえるように取り組んだことが、取り組みに勢いを生み出していました。活動を通して「もっと高い目標を目指そう！」という、仲間の意欲につながる工夫が素晴らしいと思いました。

【小泉中学校】

ルールや約束を守り続けるというのはとても大変なことです。その中で小泉中学校では、キャンペーンが終わっても変わらず「続ける」ということが大切にされていました。日常の当たり前の取り組みの中で、常に自分たちを評価し、努力し続ける点が素晴らしいと思いました。

【南ヶ丘中学校】

南ヶ丘中学校では、学級や学年の横のつながり、全校みんなで取り組む縦のつながりを大切にした活動がされています。縦のつながりには地域や伝統、学校の歴史とのつながりも意識し、母校への誇りを生み出す取り組みになっていることが素晴らしいと思いました。

【北陵中学校】

「一人一人が成長することが集団の成長になる」と考え、よりよい学校生活を創り上げるために、リーダーを中心にして考え、行動し、だれもができた事実に自信をもてるような取り組みをしてきたことが、学級や学校の誇りになりつつある姿が素晴らしいと思いました。

【南姫中学校】

日々の取り組みの中で、仲間の気持ちをきちんと受け止めて活動するといった、温かい仲間の関わりの中から、決まりやルールは、やらされるのではなく「自分からやる」「自分から守る」という意識が生まれてきていることが素晴らしいと思いました。

【全体を通して】

よりよい集団というのは、集団に所属する誰もが、安心して生活できたり、大切にされて活動できたりするものです。そのような集団生活を創造するためには、誰もがほんの少しだけ「我慢」をするうまくいくことが多いです。仲間がお互いにするほんの少しの「我慢」が、実は、ルールや約束、決まりになっているのです。「どうしてこのルール（約束）はあるのかな？」と考え、ルールや約束の意義を大切にできる集団になろうと意見をまとめることができました。

第58回多治見市科学作品展 が開催されました！

第58回多治見市科学作品展を、9月6日（土）と7日（日）の2日間、多治見市文化会館において無事開催することができました。2日間の会期中に、約1500名の方々に参観していただき、大変有意義な展示会となりました。

展示を参観していただいた皆様からは、次のようなご感想、ご意見をいただきました。

- 小学校の低学年から、いろいろな点に着目しており、同じ研究でも内容が違うところがおもしろいと思いました。
- 高学年から中学校にかけては、高度なレベルになり、親の知識がないと無理なものが多くあったように思います。中学校まで来ると、専門的なものが増え、学年を通して参考になりました。
- 子どもたちと一緒に見にきました。やはり子どもたちは、大きな作品に目を奪われていましたが、ファイリングされた実験の数々にも、段々と興味を示していました。学力低下の時代といわれていますが、子どもたちが自由な時間を実験や工作に思い切り時間を費やした形が見られて、とても満足しました。
- 過去の作品展では、やたらと数が多く、でも内容が…と思うこともありましたが、今回のは、「さすが代表！」という力作ぞろいでした。
- パソコンである程度、大人が用意してあげるとまとめやすいですね。来年度やってみます。
- 夏休みだけでなく、それ以前から時間をかけて取り組んでいる作品があつて、素晴らしいと思いました。研究の動機や進め方に個性が表れていて、おもしろかったです。
- 私の子どもの頃と比べようもないほど、一つのテーマに、とても熱心に観察し、考察し、子どもと思えないほどの作品、でもどこか子どもしさがたくさんつまつた素敵なものを見せていただき、ありがとうございました。また来年の作品展を楽しみにしています。
- 皆さん、とても熱心なレポートで感動です。子どもなりの不思議を感じる自分独自の研究のしかたで、とてもよく、驚かされ、また「そうなのか」と教えられました。ありがとうございました。

- 作品展に出ているみんなは、すごいです。ぼくは、細かいことは図工ぐらいしかやりません。ぼくも一度は出してみたいです。
 - 来年の参考になる作品があつて、すごいなあと思った。
 - どの作品も「すばらしい！」の一言です。来年1年生の孫に、とても参考になった作品ばかりでした
 - みなさん、とてもコツコツと研究に取り組んでいて、すごいと思いました。また、来年の子どもの研究に取り入れていきたいです。
 - 小学生が根気よく続けて作品を仕上げる様子を想像しながら拝見しました。このがんばりに頭が下がります。一人ではがんばれません。家族の支えがあるからこそがんばることができたのだと思います。夏休みに研究にすべての時間を費やす年があつてもいいと、作品を見ながら感じました。来年、楽しみにしています。
 - とても興味深く拝見させていただきました。どの作品も、夏休み前から取り組んでいるものもあり、とても考えて研究してあると思いました。ありがとうございました。全ての作品に賞をあげたいと思いました。
 - どの作品も、長い時間をかけてよく調べ、ていねいにまとめがしてあり、感動しました。来年の参考になりました。
- ※ いただいたたくさんの意見から抜粋させていただきました。

長い時間をかけ、様々な見方、考え方をし、追究することには、大きな意味があると考えます。また、夏休みという時間を使って、親子で力を合わせ、一つのことに取り組むことにも大きな価値がありました。

しかし、科学作品展への取り組み数は、年々減少傾向にあります。夏休みを有意義に活用し、児童生徒に「作り上げたぞ！」「やりきったぞ！」という実感がもたせられるような指導をしていただき、再び、出品数がえてくることを期待します。



「第2回 市初任者研修」を行いました ～防災研修～

7月29日（火）に、第2回多治見市初任者研修を実施しました。

今回の研修のねらいは、多治見市の安全・防災についての取組を理解するとともに、訓練、視察を通して災害時に対応できる知識・技能を身に付けることでした。

当日は、多治見中学校を会場としてお借りし、防災講話、防災倉庫資機材運営訓練、炊き出し訓練、DIG（災害図上訓練）を行いました。その後、バスで市内の災害箇所を視察しました。

防災講話では、市役所企画防災課の方から、

①市内の災害特性

②命を守る行動

③災害時の対応

について教えていただきました。

「災害（結果）は危険（誘因）が脆弱制（弱点）と出会うことで起こる」と言われているそうです。脆弱性を減らすことが災害を減らすことにつながります。

防災倉庫資機材運営訓練・炊き出し訓練では、消防本部、南消防署や女性防火クラブの方にご協力いただきました。防災倉庫には、どんな資機材があるのかを確認した後に、簡易トイレを設置しました。

炊き出し訓練では、炊飯袋（ハイゼックス）を使って、米を炊く方法を学びました。

午後からは、DIG（災害図上訓練）を行いました。DIGとは、地域で大きな災害が発生する事態を想定し、地図上に危険が予測される地帯や事態を書き込んでいく訓練です。こうして地域を知ることで、災害に対する意識を高め、避難方法などの対応を考えることにつながります。



初任者の先生方は、グループに分かれ、地図上で、線路、川、狭い道路などを色分けして、地域の特徴や想定される災害について話し合いました。

最後に、市内災害場所を視察しました。普段何気なく暮らしている場所が、災害によって一変することを現地に行って確かめました。

初任者の感想には「児童生徒一人一人が自分の命は自分で守るという意識を持ち、いつ・どこにいても状況を適切に判断し、最後まであきらめずに生き抜ける子どもを育てていくことが教員の使命だと感じました。そのために、日頃の何気ない会話の中や学校生活の様々な時間や状況の際に、命の大切さを伝えていきたいです。」とありました。

『自分の命を自分で守る子』を育てるために、教師として何をするべきかについて、一人一人が考えるよい研修となりました。

平成26年度 多治見市新規採用教員の紹介

教師として歩みはじめて③

「生徒と共に成長！！」



多治見中学校 和田あかね
教員としての生活がスタートして早5ヶ月が過ぎようとしています。新しい環境に新しい出会い。全ての出来事が刺激的であつという間に時間が過ぎています。教師になって感じることは、掛け替えのない時間を敏感に感じ取れることの大切さです。

「時」は、1秒1秒の積み重ねです。例え1秒前のことでも過去になり、過去には、戻れません。だからこそ、この先、どんな時でも、「今」を大切にし、「今」目に映っているものに、手に触れて感じているものに、耳に響く音に、全てに感謝し、素直に感動できる心の持ち主に育って欲しいと願っています。

「あの頃は良かったのに…」と、過去を振り返って後悔しないためにも。チャレンジ精神を忘れず一歩一歩着実に、未来を切り開けるそんな生徒たちを育てられるよう、私自身が感謝の心を持ち続け、何事にも進んでチャレンジし、生徒たちとともに感動し、笑い、成長できる1年間にしていきたいです。

平成26年度 多治見市新規採用教員の紹介

教師として歩みはじめて④

「私が学んだこと」

多治見中学校 伊藤 文恵

教員になって、半年が過ぎました。

毎日授業の準備と学級経営に戸惑い、4月の頃は周りが見えないほど追い込まれていました。そんな時、同じ学年の先輩方がアドバイスやヒントをくださり、何が生徒にとって大切なのかを冷静に考えることができました。自分が教師として第一歩が踏み出せたのも周りのサポートがあったからだと感謝しています。

私が教師をする上で大切だと学んだことは「相手の話を聞くこと」です。

クラスの中には、個性ある生徒がたくさんいます。伝える言葉や接し方によって、相手の受け止め方は全く違ったものになります。私自身が中学生だった時も同じでした。高圧的に指導を受けても「怖い先生だな。」と思うだけで何も心に響かなかつたことを覚えています。

まず、生徒の気持ちをよく聞き、今、何を指導すべきか、どんな言葉で語りかけることがいいのかを判断し、行動するように気を付けています。その姿勢を学級経営だけでなく、授業にも生かし、生徒によく考え方、判断力と行動力がつくように実践したいと思います。

「出逢いに感謝」

小泉中学校 藤原 泰輔

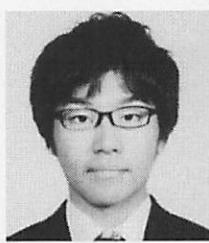
いつも元気な生徒たち、温かく見守ってくださる保護者の方々、たくさんのこと教えてくださる先生方、教員として働き始めたたくさんの人の出逢いがありました。また、初めて知る教員という仕事との出逢い、新しく見えてきた数学の世界との出逢い、日々の勉強の中にもたくさんの出逢いがありました。そんな出逢いの一つひとつが、私を成長させてくれます。その出逢いに感謝する、これが私のモットーです。

そんな私が教員になって6ヶ月が過ぎました。この6ヶ月で感じることは、生徒たちが日々成長しているということです。毎日、生徒の新しい一面に、生活の節々で出逢うことができます。このことが、今の私にとって一番の喜びであり、そしてやりがいとなっています。

これからもそんな出逢いを大切にして、新しい出逢いを楽しみに過ごしていきたいです。そして、常に感謝する心を忘れず、日々精進していきたいです。

「一生懸命に」

多治見中学校 小野 裕繼



初めて教師になって、早くも6ヶ月が経とうとしています。毎日あつという間に時間が過ぎていき、大変だと感じることが多くありますが、周りの先生たちや生徒に助けられながら、とても充実した日々を送っています。

この6ヶ月で1番感じたことは、自分の一生懸命さは、生徒にしっかりと伝わり、生徒はそれに応えてくれるということです。

1年目の私には、分からぬことがあります。数多くの研修で学ぶ機会をいただき、それを実践する毎日ですが、上手くいかないことが多いです。しかし、自分が一生懸命に努力する姿や、熱心に伝えようとする姿を見せた時、仮に失敗しても、生徒は温かく対応してくれます。私が1年目であることを理解して、アドバイスをくれる時もあります。

今はまだ、できないことがあります。しかし、初めてだからといって、それに甘えていてはいけません。初任者だからこそ、学べる機会は多くあると思います。自ら積極的に、一生懸命に学んで、教師としてどんどん成長していきたいです。

「日進月歩 ~生徒とともに~」

小泉中学校 服部 愛



教員として働きだして半年が経ちました。4月から、右往左往しながら、生徒と一緒に成長しようという気持ちをもって教科指導・生徒指導を行ってきました。生徒指導では、なかなか自分の思い通りにいかないことも多く、思い悩むこともあります。しかし、そんな中、真剣に生徒と向き合ってよかったです。嬉しい出来事もたくさんありました。

体育大会では、直前まで学級の雰囲気が盛り上がりらず、リーダーを中心に学級で話し合いをしました。本番では、大縄跳びでそれまでの最高の回数を記録し、学年優勝することができました。生徒と向き合い、本音を語り合うことで、お互いのことを理解し合うことができました。生徒自身の気付き以上に私自身が考えさせられました。

生徒指導等が上手くいかず、くじけそうになつたとき、いつも多くの先生方が背中を押してくれます。周りの方への感謝を忘れずに、これからも頑張っていきます。

平成26年度 多治見市新規採用教員の紹介

教師として歩みはじめて⑤

「恵まれた環境に感謝して」

池田小学校 倉知優美子

初めて校門坂を上り、新しくきれいな池田小学校の校舎を見て、とても感動しました。4月から赴任して、半年が過ぎようとしています。

保健室では、児童への対応で迷い、考えながら、試行錯誤の毎日です。そんな時、周りの先生方の児童への対応を実際に見て、こんな時はこう伝えよう、次はこう対応しようと、自分の視野や選択肢が広がり、常に学ぶことができます。

また、1年目は、新規採用研修として、多くの研修があります。養護教諭の先生方からご指導を受けたり、同じ新規採用の仲間と交流したりする機会が多く、良い刺激になっています。

地域に愛された素晴らしい校舎のもと、素直で、元気な子どもたちに囲まれ、周りの先生方や様々な研修から、常に、すぐに学ぶことのできる、この恵まれた環境に感謝し、今後も努力していくたいと思います。

「子どもの笑顔に支えられ」

北栄小学校 松本麻友美

4月から新規採用教員としてスタートし、あっという間に6ヶ月が経ちました。当初はわからないことばかりの日々で戸惑いや不安ばかりでした。しかし、明るく元気な子ども達の笑顔に支えられて毎日を乗り越えてきました。

この6ヶ月間、様々な理由で保健室に来室する児童をみてきました。対応がうまくいかず悩んだこともあります。しかし、そんな中「先生、保健室にいたら楽になったよ。また頑張って授業にいってくるね。」と、保健室で心身を休めて元気に教室に戻っていく子ども達もたくさんいました。そんな姿をみると、とてもうれしいです。また頑張ろうという力を子ども達からもらっています。

私の教員生活は始まったばかりです。目の前の子どもとしっかり向き合い、心身ともに健康な子ども達を育てたいです。そして感謝の気持ちを忘れず、毎日を精一杯すごしていきたいと思います。



シリーズ連載

S S W (スクールソーシャルワーカー) の仕事②

S S Wの基本的なプロセス

学校におけるスクールソーシャルワークは、以下のような過程（プロセス）が想定されます。それぞれの過程は独立しているわけではなく、行ったり来たりしながら進んでいきます。また、短期間で解決するのではなく、児童生徒にとって何が最もよいことなのかという視点に立って、支援にあたります。

① 問題の発見・情報の収集

- 児童生徒、保護者、教職員からの相談も受けます。そして、該当児童生徒との個別相談の他、様々な関係者（関係機関）からの聞き取り等を行い、情報を整理しながら記録します。

② 課題の明確化（アセスメント）

- 収集した情報を整理・分析し、児童生徒が体験している問題とその背景要因を包括的に理解します。
- 問題の解決に向けて、児童生徒の利益を最大限確保するために、鍵を握っている人（キーパーソン）を明らかにします。

③ 支援の検討

- 長期目標と短期目標があり、状況に応じた目標を設定します。
- 児童生徒や保護者の意向を踏まえ、最善の対応策を考えます。
- 支援の役割を分担します。

④ 支援の実施

- ケース会議等で話し合われた内容の具体的な実施を行います。
- 役割分担に沿った支援、家庭・地域・関係機関と連携した支援を行います。

⑤ 経過観察と評価（モニタリング）

- 児童生徒や保護者との連絡による状況把握を行います。そして、情報収集及び共有を図り、効果の分析を行います。

(S S W活用の手引き（県教委）より抜粋)